

3. 水源地域の現状

3-1 水源地域の概要

自然環境

江の川は広島・島根両県境に位置する阿佐山（1,218m）の東方にその源を発し、中国山地のほぼ中央を貫流し日本海に注ぐ中国地方最大の一級河川です。

その上流に位置する水源地域（安芸高田市、北広島町のうち旧大朝町域及び旧千代田町域）は、冬季には積雪を記録するなど、低温多雨で積雪寒冷な山間特有の気象条件を呈しています。

また、総面積の約8割が森林に占められるとともに、森林の約7割が自然林により構成されているなど恵まれた自然環境を有しており、森林や水域には豊かな生態系が築かれています。

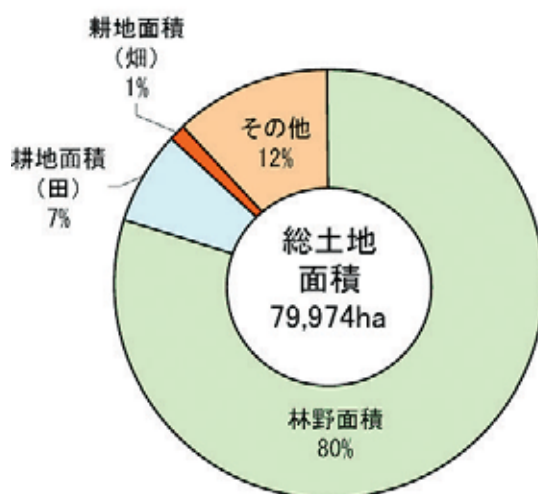


図-3.1 水源地域の土地利用状況
(出典：2000年世界農林業センサス)

歴史・文化

水源地域一帯は古代文化の栄えた出雲地方に近いことや、戦国時代の知将である毛利元就の一族が繁栄した地として、数多くの史跡・名勝が各地に点在しています。

また、神楽の地として全国的にも有名であるとともに、国指定文化財である「安芸のはやし田」や「壬生の花田植」などが地域の伝統芸能として大切に受け継がれています。

なお、安芸高田市は、平成16年3月1日に高田郡6町（吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町）の合併により、また、北広島町は、平成17年2月1日に山県郡内の4町（大朝町、千代田町、芸北町、豊平町）の合併により新たな市政、町政として誕生しました。



安芸のはやし田
(出典：安芸高田市ホームページ)

人 口

本水源地域の人口は、旧千代田町では高速道路の開通や工業団地、県営千代田流通団地などのインフラ整備により微増傾向にありますが、安芸高田市、旧大朝町では減少傾向にあります。

一方、老年人口割合（全人口に対する65歳以上の人口の割合）高齢化率で見ると、平成12年現在、安芸高田市30.8%、旧大朝町31.1%、旧千代田町27.2%と、いずれの地域も県内平均（18.5%）を大きく上回っており、今後、若者の定住化や高齢者に対する福祉・支援の強化が急務であると考えられます。

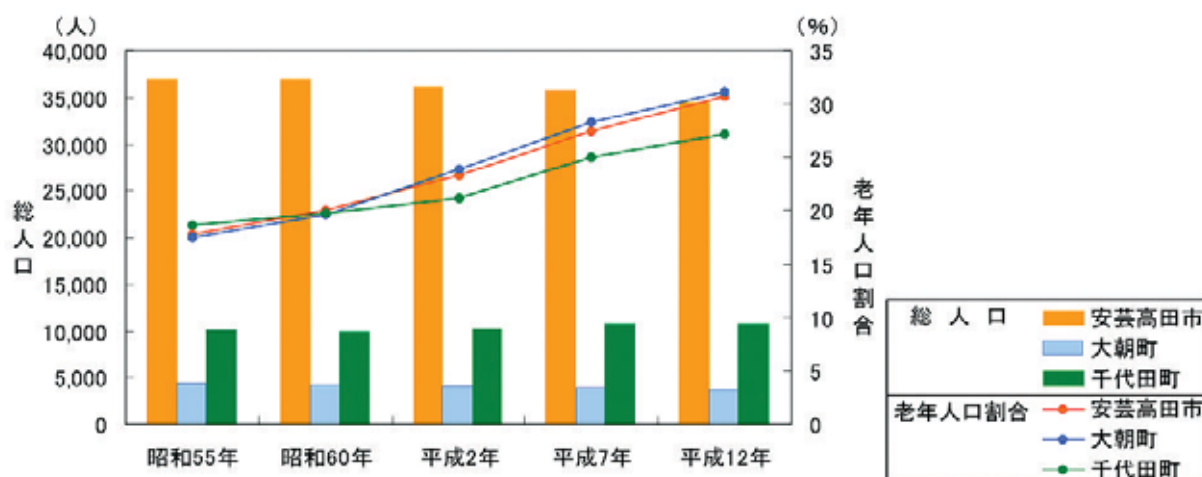


図-3.2 水源地域の人口及び老年人口割合の推移
（出典：国勢調査、大朝町・千代田町は旧町域を指す）

産 業

水源地域では農林業を基幹産業として発展してきましたが、近年は農家人口、林家数ともに減少の傾向にあります。

農業は兼業化が進む中で、農業従事者の高齢化や後継者不足が深刻化し、さらに、米価の低落や転作強化によって生産意欲が低下し、産業としての主導的な地位を失いつつあります。また林業も、木材価格の低迷や林業就業者の減少、高齢化などにより、森林の管理が難しくなっています。

しかし、その一方で、産直販売所の開設をはじめとする地場産業を活かした新たな展開も見られています。

交 通

水源地域には、中国自動車道が三次市と広島市をつなぐように、北東方向から南西方向に走っています。また北広島町では、北西から縦断する浜田自動車道が、この中国自動車道に合流しています。一般国道は、国道261号線が南北を縦断し、国道433号線が東西を横断するように走っており、さらに江の川に沿うように、三次市と広島市をつなぐ国道54号線も位置しています。水源地域までの所要時間は、広島市から1時間程度、三次市から30分程度となっています。

鉄道は、北東の位置に三次市と江津市をつなぐJR三江線が江の川に沿うように走り、南東の位置に三次市と広島市をつなぐ芸備線が位置しています。



図-3.3 水源地域の人交通網（大朝町・千代田町は旧町域を指す）

観 光

観光客の入込客数は平成に入ってから増加傾向でしたが、平成10年頃からは200万人程度（出典：広島県入込観光客の動向，広島県）でほぼ一定して推移しています。また、水源地域を訪れる人のうち約2割程度が八千代湖を訪れるなど、土師ダムが地域の大きな観光資源として定着していることが伺われます。

しかし、多くの観光客が桜や紅葉の行楽シーズンに集中しているとともに、近年の高速交通体系の整備により、通過型の観光が主となっており、今後は冬季も含む通年型・滞在型の観光への誘導が大きな課題となっています。

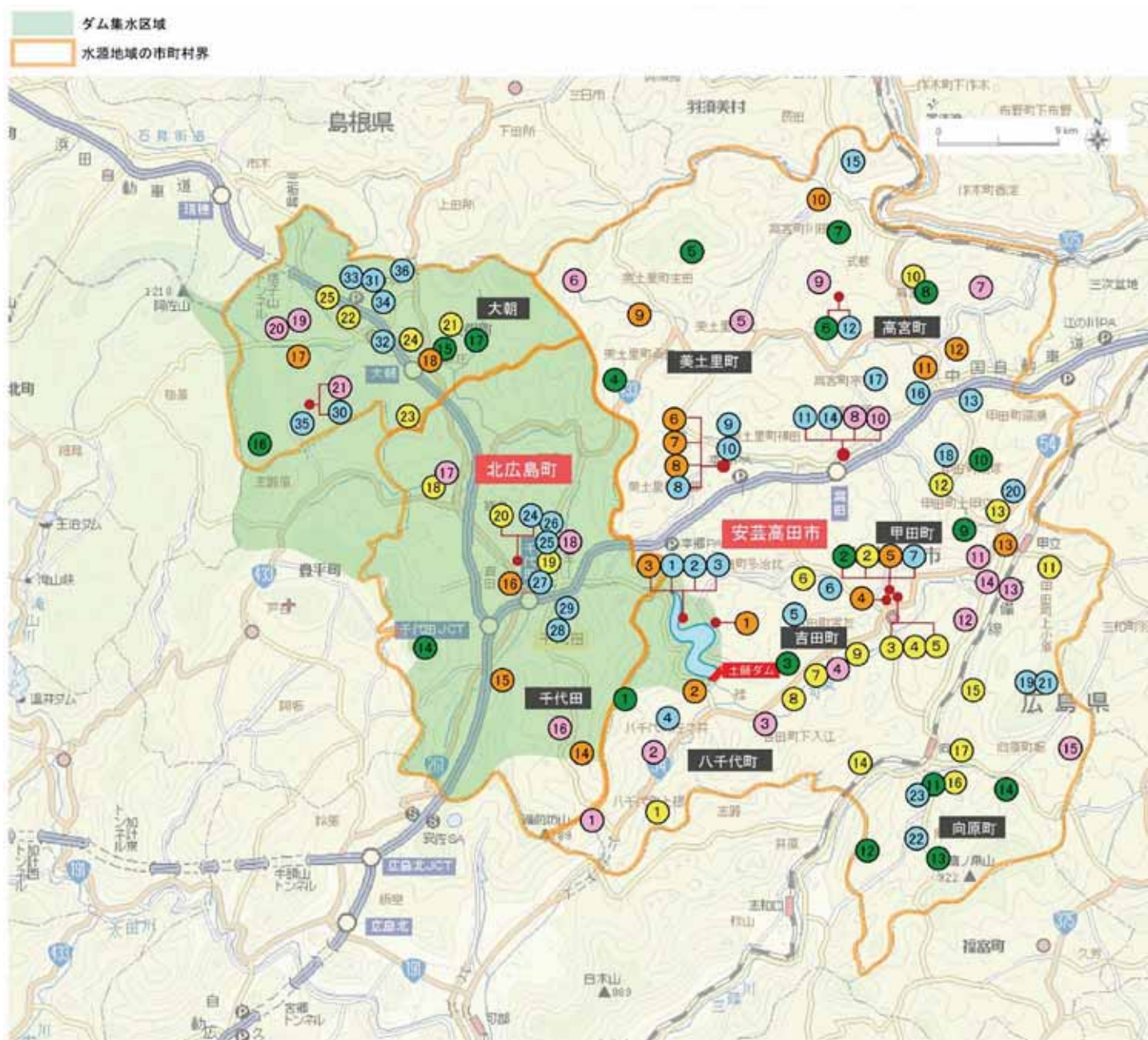


図-3.4 土師ダム周辺資源図

市町	自然
安芸高田市	八千代町 ● 八千代湖(土師ダム、桜)
	1 堂床山自然歩道
	吉田町 2 郡山公園(ツツジ)
	3 星ヶ城いこいの森(桜・モミジ)
	美土里町 4 滝ヶ谷溪谷
	5 犬伏山
	高宮町 6 香六ダム
	7 小掛峽(モミジ)
	8 面山森林公園
	甲田町 9 唯称庵楓林(モミジ)
	10 湧永満之記念庭園
	向原町 11 丸山公園(桜)
	12 神の倉公園(桜、ツツジ、フジ)
	13 鷹の巣山ハイキングコース(雲海)
北広島町	千代田 14 猿食山・千代田盆地(霧の海)
	大朝 15 小倉山公園花ショウブ園
	16 大朝のテングシデ群落
	17 八栄神社の大ヒノキ

市町	文化財 史跡
安芸高田市	八千代町 1 阿賀城跡
	吉田町 2 郡山城跡
	3 清神社
	4 毛利元就の墓
	5 三矢の訓の碑
	6 多治比猿掛城跡
	7 福原城跡
	8 桂城跡
	9 三菱窟
	高宮町 10 船佐・山内逆断層帯
	甲田町 11 高林坊
	12 児玉家住宅
	13 五龍城址
北広島町	向原町 14 尼子三兄弟ゆかりの墓
	15 滝の観音
	16 日下津城跡
	17 琴比良神社
	千代田 18 史跡吉川氏城館跡(万徳院跡)
	19 壬生城
	20 古保利(こおり)薬師
	大朝 21 小倉山城跡 (史跡吉川氏城館跡)
	22 駿河丸城跡
	23 日山城跡
	24 龍山八幡神社本殿
	25 枝宮八幡神社

市町	文化施設
安芸高田市	八千代町 1 ハジ丸館
	2 芸術農園「四季の里」
	3 土師民俗資料館
	吉田町 4 吉田町歴史民俗資料館
	5 県立少年自然の家
	美土里町 6 神楽ドーム
	7 かむくら座
	8 神楽資料館
	9 青野民俗資料館
	高宮町 10 エコミュージアム川根
	11 田園パラッツォ
	12 高齢者生産活動センター
北広島町	甲田町 13 若者定住センターミューズ
	千代田 14 たいどう彫刻材
	15 八王子よみがえりの水
	16 芸北民俗収蔵庫
	大朝 17 筏津芸術村
	18 大朝町文化センター

市町	スポーツ・レクリエーション施設
安芸高田市	八千代町 1 八千代町サイクリングターミナル
	2 八千代湖スポーツランド
	3 土師ダム記念公園
	4 八千代カントリークラブ
	吉田町 5 吉田サッカー公園
	6 吉田運動公園
	7 少年自然の家キャンプ場
	美土里町 8 神楽門前湯治村
	9 ほととぎす遊園
	10 美土里総合運動公園
	高宮町 11 広島ニュージールランド村
	12 香六ダム公園
	13 リージャスクレストゴルフクラブ
	14 道の駅 北の関宿 安芸高田
	15 エコビレッジかわね
	16 TS TAKATA Circuit
	17 たかみや湯の森
	甲田町 18 テージャスランチ(乗馬)
	19 大土山憩いの森
	20 甲立多目的広場
	向原町 21 大土山憩いの森
	22 向原町運動広場
	23 農村交流館やすらぎ
北広島町	千代田 24 薬師公園(リバーサイドパーク)
	25 宿泊研修施設アザレア千代田
	26 千代田町運動公園
	27 道の駅 舞ロードIC千代田
	28 千代田温泉
	29 養老温泉
	大朝 30 天狗の里公園
	31 ゲストハウス銀の森
	32 大朝町ふれあいの森
	33 スキーパーク寒曳
	34 ゆとりの森キャンプ場
	35 田原温泉5000年風呂
	36 おおあさ鳴滝露天温泉

市町	観光農林漁業
安芸高田市	八千代町 1 フィッシングパーク里豊夢
	2 らんらんばたけ
	吉田町 3 観光梨園
	4 ふれあいいたかた産直市
	美土里町 5 観光りんご園
	6 ヤマメ釣り堀
	高宮町 7 福田観光梨園
	8 青空市場
	9 フィッシングレイクたかみや
	10 レインボーファーム
	甲田町 11 観光梨園(市ヶ原地域)
	12 谷上梨園
	13 品川栗園
北広島町	向原町 14 西村ぶどう園
	15 向原養魚場
	千代田 16 柚子の里ふれあい農園
	17 ととき村ふれあい農園
	18 梅の木ふれあい農園
	大朝 19 天意の里ハーブ園
	20 ふれあいいりんご園
	21 交流館「天狗の里」 (農産物直売所など)

土師ダム周辺資源一覧表

3-2 土師ダムの概要

建設の経緯

土師ダムは江の川の洪水調節、かんがい用水の補給、広島市周辺地域に対する都市用水の供給並びに発電を目的として昭和49年3月に完成した多目的ダムです。

江の川の本格的な河川改修は昭和20年9月に発生した枕崎台風による被害を契機に、昭和25年から中小河川改修事業として着手されました。その後、昭和28年からは直轄改修事業（1級河川指定は昭和41年）として引継がれ、昭和41年に策定された「江の川工事实施基本計画」に基づき、下土師地区から三次市までの江の川、三次市周辺の馬洗川及び西城川において主として堤防の新設、拡築、河川掘削等を鋭意実施してきましたが、昭和40年、昭和47年と相次ぐ大規模洪水に見舞われ、沿川各地に大災害を惹起したため、再度、計画の見直しが迫られるものとなりました。

一方、利水の面からは、広島市周辺の経済発展はめざましく、広島市東部及び呉地区に位置する広大な工業用地における工業用水の需要増大とともに、広島市及びその周辺都市圏の急激な人口増加に伴い太田川水系からだけの利水能力では限界が見え、新たな水源の確保が急務となっていました。また、江の川（可愛川）支川簸川沿川の農地約280ha（当時）は干ばつの常襲地帯であり、その水源確保が課題となっていました。

このような治水・利水両面の要請に応えるため、国土交通省では昭和48年に「江の川工事实施基本計画」の改訂を行い、尾関山基準点における基本高水（10,200m³/s）を、土師ダムを含む江の川のダム群により7,600m³/sに調節する計画とする他、土師ダムの建設により、江の川の洪水調節、農業用水の供給のみならず、水資源の広域かつ多目的な利用を意図して、太田川に流域変更し、広島周辺地域に対する都市用水を確保し、併せて発電を実施するものとなりました。

土師ダムは建設省直轄事業として、昭和41年4月より本格的な調査がはじめられ、昭和49年3月まで8年間の歳月と約100億円の巨費を投じて完成しました。

なお、土師ダムの建設により、約100haの田畑の水没と、203戸の家屋移転が余儀なくされています。



土師ダム堤体下流面全景

ダムの諸元

土師ダムはコンクリートの重力で貯水池の水圧を支える「重力式コンクリートダム」形式であり、堤高50m、堤頂長300.0mを有しています。

また、貯水池（八千代湖）の湛水面積は2.8km²、有効貯水容量は4,110万m³（25mプール約12万杯分の水量）に達します。

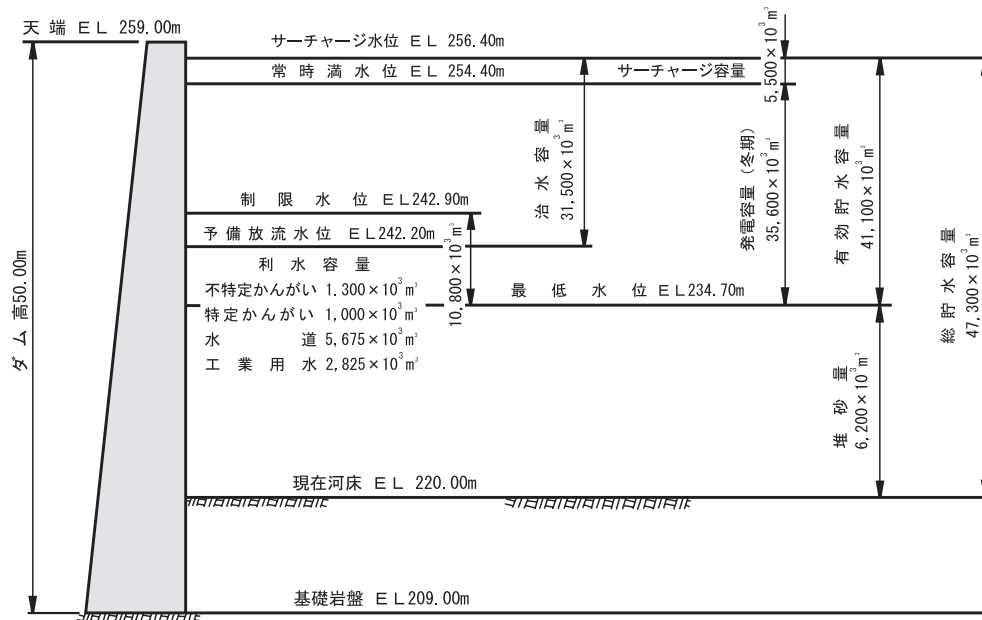


図-3.5 貯水池容量配分図

ダムの機能と効果

土師ダムは、江の川の洪水調節、河川環境保全等のための流量確保、流域の農作物の生産に不可欠な農業用水の補給という機能のみならず、水資源の広域かつ多目的な利用を図るため、太田川に流域変更し、広島周辺地域に対する都市用水・工業用水を確保し、併せて発電を行うなど、江の川流域及び太田川流域の社会基盤の形成・発展のための多くの役割を担っています。

なお、太田川より取水される広島市周辺の上水道用水及び工業用水のうち、上水道用水については約22%（200,000m³/day）、工業用水については約26%（100,000m³/day）を、土師ダムからの分水量が占めています。（許可水利権ベースによる割合）

・・・ 土師ダムの機能 ・・・	
洪水調節 ダム地点の計画高水流量 1,900m ³ /s のうち、1,100m ³ /s の洪水調節を行い、800m ³ /s に低減し、下流の水害を防除します。	農業用水の補給 ダム下流の江の川沿岸や、支川の簸川沿岸の農地に対し、かんがい用水の補給を行います。
都市用水の供給 水資源の広域的かつ多目的な利用を意図し、広島市周辺地域や瀬戸内海の島しょ部の5市5町の水道用水の一部として、毎日 200,000m ³ （うち 100,000m ³ /日が広島市）の水を供給します。また、広島市から呉市の間にある工場の工業用水の一部として、毎日 100,000m ³ の水を供給します。	発電 太田川水系に送水する水を利用して、可部発電所において、最大電力 38,000kw、年間発生電力量約 149,000kwh の発電を行います。
	河川環境の保全 渇水など河川の流量が少ない場合には、ダムから貯水池の水を放流して河川に必要な流量を確保し、河川環境の保全を図ります。